

平成29年6月23日

第1回八尾翠翔高等学校協議会（報告）

協議委員（6名）の参加をいただき、本校教職員（4名）が同席し協議を行った。主な質疑等については、以下の通りである。

① 学校経営計画より

初めに、本年度の学校経営計画について首席より説明した。前年度の目標であった「生徒が主体になる」「生徒が前に出る」ことについて一定の成果をあげたことを受けて、今年度は、より積極的に学校説明会や清掃活動、朝の挨拶運動等を推し進めていくこと。また、生徒と教員の距離感を縮めるべく、「学校生活についての教員の指導に関する満足度」を指標の一つに加えたことについて説明した。一方「人権教育の充実」では、新たに「知的障がい生徒自立支援コースの生徒と他の生徒との交流」をより積極的に実現することに加え、学校あげての人権意識のさらなる高揚をめざすことも盛り込んだ旨報告した。

【意見・提言】

- ・生徒指導において、先生の思いが伝わりにくい生徒がいることについて、昨今コミュニケーションの取り方が大きく変化してきていることが原因として挙げられるのではないかと。特定の先生のみが生徒指導するとこういう弊害が生じるので、全教員で指導にあたることを提言したい。
- ・一般社会でも、人の話を最後まで聞かず、途中でかぶせるように話す人が多いように思う。相手の意図をよく理解できていない人が増えてきているのではないかと。
- ・昨年度の進路実績が目標値に達しなかったが、個々人の将来を見据えた進路指導を実践している翠翔高校の方法は評価できる。そもそも進路希望は本人の適性や将来の目標により千差万別で、有名大学に何人合格したといったような目標設定自体を見直すことが大事だ。時代遅れと言われても致し方ない。
- ・挨拶運動など、地域でも好意的に受け止めている。こうした動きが学校全体に広がって、翠翔のイメージがもっと向上するようにして欲しい。
- ・授業改善の取組みが進んでいるようだが、授業は導入の部分が大事だと思う。冒頭に本時の目標を伝えることで、焦点がはっきりし生徒の理解が促される。授業観察シートの項目に、「私が言いたかったことが分かりましたか？」といったものを加えてはどうか。
- ・生徒の海外語学研修の実施や、オーストラリアの高校生を迎えての行事など、国際交流を盛んにされていることが分かるが、学校経営計画の中に、評価指標としてこれらを加えたらどうか。例えば、スピーチコンテストに何人生徒が参加したとか、2年後のワールドカップ開催を見据えて、商店街などでも一般商店主向けに無料の「英語塾」が開催されているようだが、こうした取組みに生徒を参加させるとか、考えていただきたい。

② 年度採用予定の教科書の紹介

委員の方々に見ていただき、採択予定教科書へのご理解を得た。